



THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO KITA

c/o TOKYO YMCA 2-2-20 TOYO KOTO-KU TOKYO 135-0016, JAPAN Tel.03-3615-5562
 AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS. CHARTERED 1980



2020年 9月 No474

Jacob Kristensen (デンマーク) 国際会長主題:

「VALUES,EXTENSION,andLEADERSHIP」 [価値観、エクステンション、リーダーシップ]
 スローガン: 「TRUST IN THE RIVER OF LIFE」 [命の川を信じよう]

David Lua アジア太平洋地域会長主題: 「Make A Difference」 [変化をもたらそう]
 スローガン: [奮い立たせよう]

板村哲也(東京武蔵野多摩)東日本区理事主題: “ Let’ s enjoy Changes” [変化を楽しもう]
 副題: 「Let’ s help and share each other」 [助け合い、分かち合い]

柿沼敬喜 (東京グリーン) 関東東部部長主題: 「学びと親睦を糧に外へ向かおう！」

村杉一榮 東京北クラブ会長主題: 「 元気をだして 楽しく! 」

会長;村杉一榮 副会長;磯部成文 書記;金 秀男 会計;磯部幸子 担当主事;小松康広

【今月の聖句】

コリントの信徒への手紙Ⅰ 10章 13節

『神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道も備えていてくださいます。』 金 秀男 選

第590回 9月例会プログラム

日時: 2020年9月15日 (火) 13:00~15:00

会場: 日本キリスト教団浅草教会 教育館

受付: 会員

卓話 『小豆島とキリシタン大名』

YMCA史学会理事長 齊藤 實氏

関東東部部長 柿沼敬喜氏公式訪問 (東京グリーン)

ハッピーバースデー

28日小松康広 30日金 聖愛

今後の予定

1. 第一例会プログラム

①第591回 2020年 10月20日 (火)

卓話 大江 浩氏 (興望館常務理事)

★会場も興望館を予定 13:00~15:00

②第592回 2020年 11月17日 (火)

内容 未定

2. 報告・協議事項

①1月例会を東京北クラブ40周年記念例会として開催を予定する。OBをお誘いする。

②10月3日 (土) 関東東部部会予定 浅草橋

村杉一榮会長 参加予定

千葉ウエストクラブチャーターも一緒に行われる予定

メッセージ 「せめてあなたがたは」

篠田真紀子氏 (浅草教会牧師)

「兄たちは、父がどの兄弟よりもヨセフをかわいがるのを見て、ヨセフを憎み、穏やかに話すことも出来なかった。」
 創世記37:4

「できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らさなさい。愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。」
 ローマ12:18-19

日本にとってこの8月は、「六日九日十五日」をおぼえ、75年前の戦争の犠牲者の尊い命を思い、世界で唯一の戦争爆国である日本が、「戦争は二度としない!させない」という戦争の放棄の決意を新たに、平和国家の使命を確認する時です。また、最近の人種差別を巡る悲しいニュースを見るに、今から57年前、M.L.キング牧師が、あの「I have a dream」の演説をした8月26日も忘れるわけにはいきません。改めて、あらゆる意味での世界の平和のための祈りと行動が必要です。さて、上記のみ言葉は、その「平和」ということに関するものです。ヨセフには10人の兄と一人の弟がいましたが、父のヤコブがヨセフだけを特別にかわいがるので、兄たちはヨセフの事を妬み、憎み、「穏やかに話すことも出来なかった」といいます。この後、兄たちとヨセフの関係は悪化して、ついには、ヨセフは兄たちに落とし穴に落とされ、エジプトに売られてしまう...ということが起こります。

その関係悪化の象徴としてここに出て来る「穏やかに話すことも出来なかった」という、「穏やかに」という言葉が、

8月在籍者	8月出席者 (例会中止)	8月出席率	B F等ポイント	ニコニコボックス
会 員 7名	会 員 0名	%	月分	
	広義会員 0名	メイクアップ	切 手 0g	8月分
	メネット 0名	名	現 金 0円	0 円
広義会員 5名	ビジター 1名	月修正出席率	本年度累計	本年度累計
合 計 12名	ゲスト 0名	%	切 手 0g	7,000 円
	合 計0名		現 金 0円	

旧約聖書の原語のヘブライ語で「シャローム」＝「平和」を意味する言葉です。シャロームというのは、ユダヤ人にとっては日々の挨拶の言葉で、「おはよう」とか「ありがとう」というのと同じです。それは、相手に対して「あなたに神さまの平和がありますように」という祈りを込めた短い日常の挨拶です。ところが、ヨセフと兄たちには、そのシャロームが無くなってしまったのです。つまり、人間関係の悪化とは、平和の挨拶や、心穏やかに会話をすることが出来なくなることから始まるのです。でももう一つ聞いたローマ書のみ言葉では何と言っていたでしょう。「愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。」です。相手を無視したり、挨拶しない、ということは、すでに相手に対して復讐を始めてしまっているのであって、それはするな！というのです。

「できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に過ごしなさい。」「せめてあなたがたは」と言われます。あなたがたは特別だということです。なぜなら神さまを知っているからです。自分が神に愛されている「あなたがた」だからです。聖書のことばを知っている「あなたがた」だからです。だから、他の人がそうでなくとも「せめてあなたがたは」とたとえ、嫌だなとか腹立たしいな、と思ってもその感情をそのままぶつけるのではなく、その気持ちは神さまにお任せして、まずは自分自身の心を神さまに委ね、神さまの愛と平和で包んでもらうのです。そうして、自分自身を穏やかに平和にして頂いて、自分から平和の挨拶を始めてみるのです。穏やかな会話を始めてみるのです。それが人と人との平和を作り出す第一歩だ！と御言葉は教えてくれています。

だから、できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に過ごしなさい。

随筆

磯部成文

8月をもって79歳になりました。こんなに暑い日に生まれたせいか、暑さはさほど気になりません。寒がりです。

ポーと生きているわけではないのですが、日々の中で何かにつけて歳を意識したり、いつのまにか歳を忘れてたりしながら絶対年齢は加算されていくようです。生まれてから健康に恵まれてきたことは、両親、家族、先輩、同僚、後輩、私は仕事人生が長いので、仕事の仲間にも恵まれてきたことに感謝の気持ちでいっぱいです。わがクラブでは、人生のお手本ともいべき齊藤寛さん、篠澤忠彦さんがおられることは誠にありがたいことです。お二人の言動を見習いながら過ごしているといっても過言ではありません。

後期高齢者となった以降、最近のことでいえば、77歳の時に胃がんの内視鏡手術を、また脊椎管狭窄症に痛く悩まされました。悩まされた時期を含めて、健康で過ごしているのは毎日の食事がいちばん大切であるあることが身にしみています。妻幸子がすべてを支えてくれ、感謝、感謝です。自身では、毎朝ストレッチ、スクワット、ツイスター、ジョウバ60分と、できる限り毎日歩くことを心掛けています。

私の日常はというと、若い時から、今も「人が好き」「働くことが好き」「新しいコトが好き」「考えることが好き」「モノづくりが好き」「喜ばせることが好き」を実践してきていると思います。

どなたでもお会いして仲良くなれる、特に初対面の方に合うのはワクワクします。子供のころから汗水たらして懸命に働く両親の姿を見て育ったからかもしれません。何事にも興味津々、なんで！どうして！の毎日です。新しいことを発見できた時の喜びは格別です。24時間私の頭の中はなぜか動いています。目が覚めた枕元、トイレ、風呂場、食卓には、メモが散らばっています。モノづくりの会社で育ったせいか、商品開発には特段の興味が湧いてきます。自分が考えた新商品を使ってくださっている風景を見る喜びはなんとも言いようがありません。

++ 清泉YMCA便り++++ 阿部萌香さん

こんにちは！2年副部長の阿部萌香です。感染症の影響で思うように活動できない日々が続いていますが、そんな中でも清泉YMCAは新たな取り組みを始めています。8月はルワンダ人女性を支援する団体である、「KISEKI」さんに協力していただき、zoomを使用したオンライン交流会を行いました。交流会は2回にわけて実施し、1回目はルワンダの文化や、コロナでの生活の変化についてお聞きし知識を深めました。2回目はライブグラフを用いてお互いのことをシェアしたり、ダンスをするなど貴重な体験をさせていただきました。お金も手間もかけずに気軽に国際交流ができ参加したメンバーからもとても好評でした。このような状況ですが、今後もできることを見つけ活動していきたいと思えます。

** 興望館便り **** 五十嵐美奈さん

「コロナ禍の住み込みボランティア」

8月31日、18歳のオーストラリア人青年が帰国しました。3月4日、ウイルスの脅威がすでに世界的に認知されており、喘息の既往症があったにも関わらず彼は来日し、緊急事態宣言明けの6月からは保育園の清掃と消毒作業に明け暮れました。そのカイレン君が帰国にあたっての保護者向けレターで、次のように記しました。『毎日の清掃はとても大切な仕事だと思いました。掃除は大層な仕事ではないけれど、いつも終わると達成感と心地よさがあり、小さな働きを通じてより大きなことに貢献できている実感がありました。』*Although cleaning isn't necessarily a big task, I always felt a sense of accomplishment after finishing and had a nice feeling that I was contributing to something bigger, in a small way.*

集うこともキャンプもできない半年間、子どもたちの健康と最善の保育のために連携してきた職員たちは、この言葉に救われる思いでした。彼は興望館で様々な世代と関わり合った経験が生かされるとの確信をもって、母国で作業療法士をめざすそうです。

YyYyYyYyYyYyYyYy YMCAニュース YyYyYyYyYyYyYyYy

「第34回インターナショナル・チャリティーラン2020」
コロナ禍のため、スマートフォン用のアプリを使用それぞれの場で、走らずに歩きます！個人でもご参加いただけますので是非、お申込をお待ちしています。申込9/25まで
「プレ・イベント（個人参加）」10/17（土）～/23（金）
「本レース（チーム参加）」10/24（土）～11/1（日）

（小松康広担当主事）